

図1 地球惑星科学 宇宙惑星科学分野の夢ロードマップ

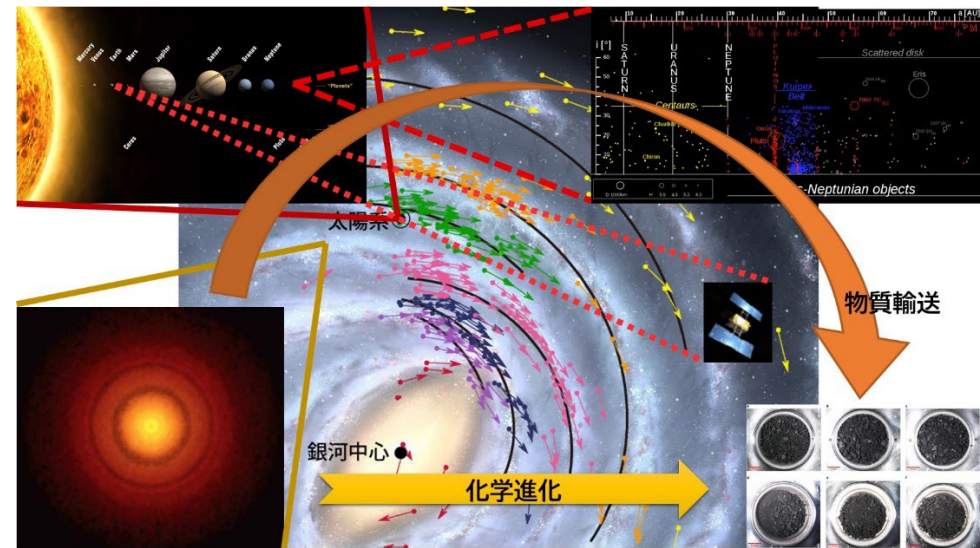


図2 電波天文学による惑星系ダスト観測, 光赤外天文学による海王星外縁天体観測, 小天体探査がつなぐ分子化学進化と生命生存環境.

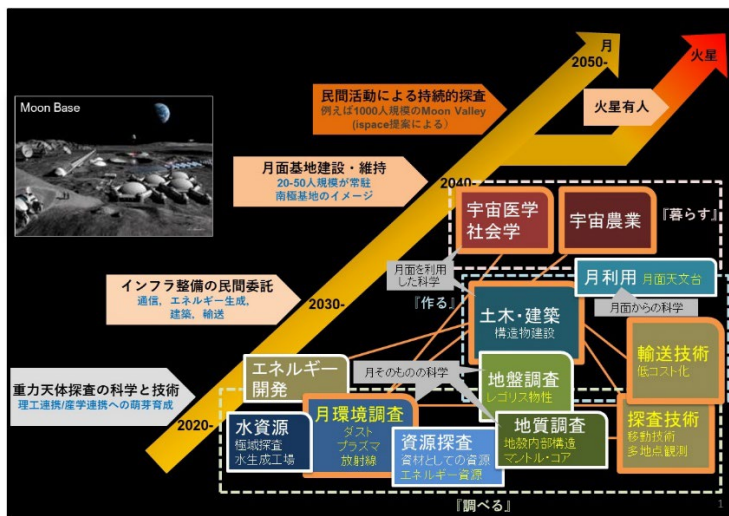


図3 ムーンビレッジに至る月科学の拡大.

- 系外惑星観測数の増大→分類
 - ベンチマークとしての地球, 火星, 金星, 月
 - 系外惑星観測 + 惑星探査 + 地球科学/生命科学
- 液体の水があれば良い vs 安定した環境
 ⇒ 陸惑星, CO₂の貯蔵とリサイクル, 大規模火成活動と表層, 大陸からのP供給

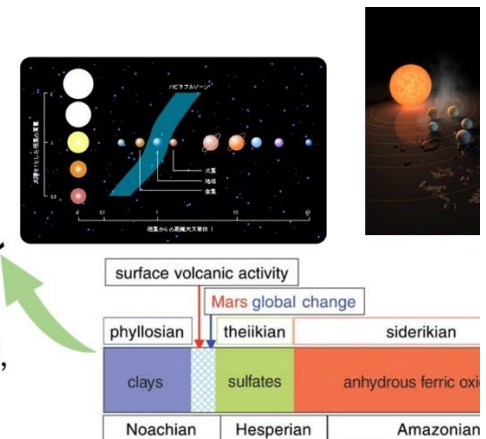


図4 太陽系内の生命生存環境調査と系外惑星の関連.

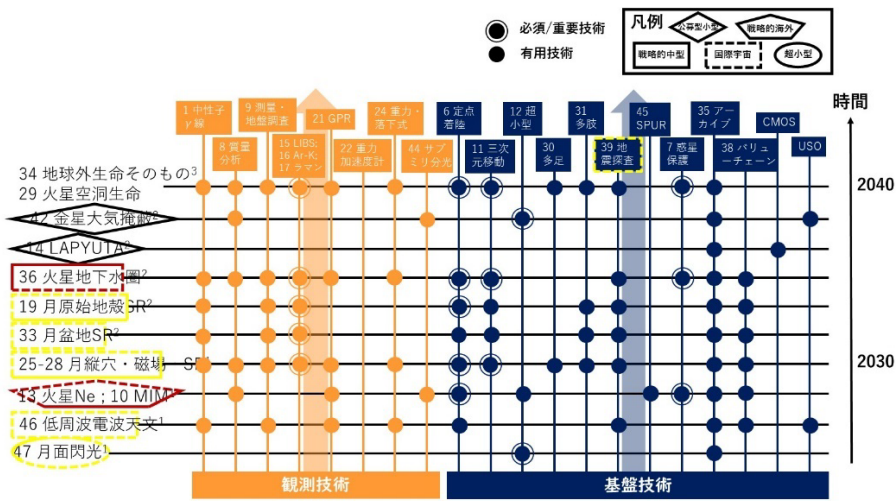


図5 惑星科学会「月惑星探査の来る10年2」で検討されている科学と技術のマッチング。



図6 ボトムアップ型の宇宙研プロジェクトの概念。

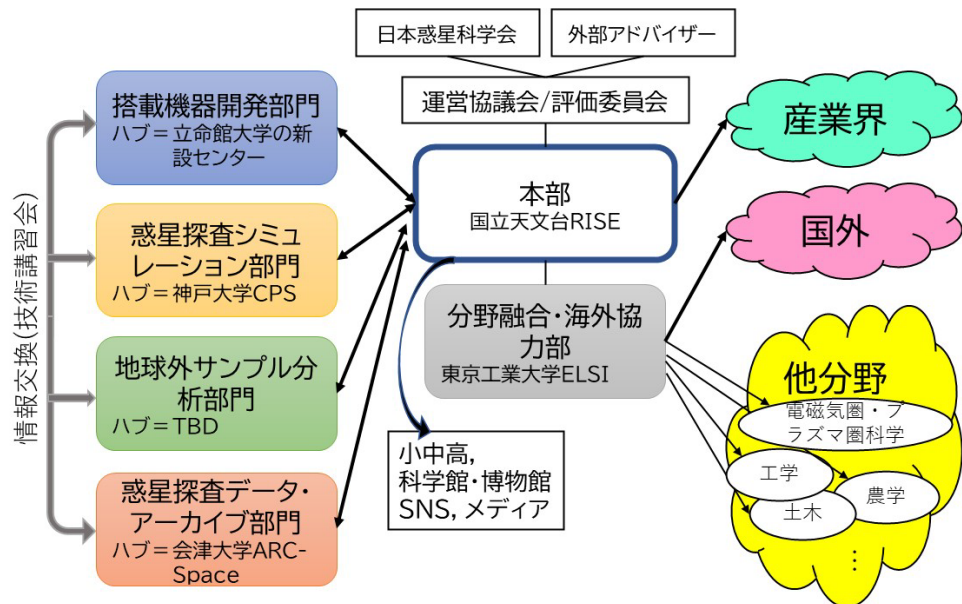


図7 惑星探査コンソーシアムの構成。

経費			年額	10年合計
運用費	保守維持費	搭載機器開発部門	3千万円	
		惑星探査シミュレーション部門	1千万円	
		地球外サンプル分析部門	3千万円	
		惑星探査データアーカイブ部門	0.5千万円	
		共同研究	学位研究支援	0.1千万円
人件費	特任教授	広報普及	0.15千万円	
		会議費	0.25千万円	
		学校 (100万円/年) 技術講習会 (25万円/回 x 2回/年) 運営協議会 (20万円/回 x 4回/年) 外部評価 (60万円/回 x 1/3回/年)	8億円	
事務支援員	1.5千万円 x 6名分	9千万円		
	0.5千万円 x 1名分	0.5千万円	9.5億円	

表1 年間所要経費。